



より一層の経営改善に努めていきます。

当院は、昭和23年3月江田町外三ヶ村組合立国民健康保険共済病院としてスタートし、令和3年3月に創立73年を迎えました。病院理念である、医療を通じて住民が安心して生活できる社会づくりに貢献することを目標に、公的医療機関としての役割と責務を果たし、公営企業としての効率性を高めるよう職員一丸となり努めています。



患者数等の状況

令和2年度の入院患者数はのべ16,317人で、前年度と比較し、2,948人の減少となり、病床利用率は49.1%となりました。外来患者数はのべ21,914人で、前年度と比較し1,671人の減少となりました。

また、夜間・休日の救急患者の受け入れ人数は1,207人であり、うち救急車搬送人数は77人でした。

なお、健康管理センターでの健診受診者延数は2,769人、居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数は1,449件、訪問看護ステーションの利用者数は546人、延訪問回数は2,407回)となっています。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の流行がいつまで続くか不透明な状況ですが、他の医療機関と連携し、当院も自治体病院の役割を果たしていきます。また、今後地域での医療機関としても住民の皆様から信頼される公的医療機関を目指します。

■用語の説明

経常収支比率

経常的な経営活動に伴う収益から費用を差し引いたもの。この数値が100%を超える場合は経常黒字、100%未満であれば、経常赤字を示します。

(経常収益/経常費用)×100

医業収支比率

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様にこの比率が100%以上であることが望ましい。

(医業収益/医業費用)×100

職員給与比率

病院の職員数などが適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営のポイントとなります。

(職員給与費/医業収益)×100

病床利用率

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合は、病床規模が適切か否かを検討する必要があります。

(年延入院患者数/年延病床数)×100

■令和元年度との比較

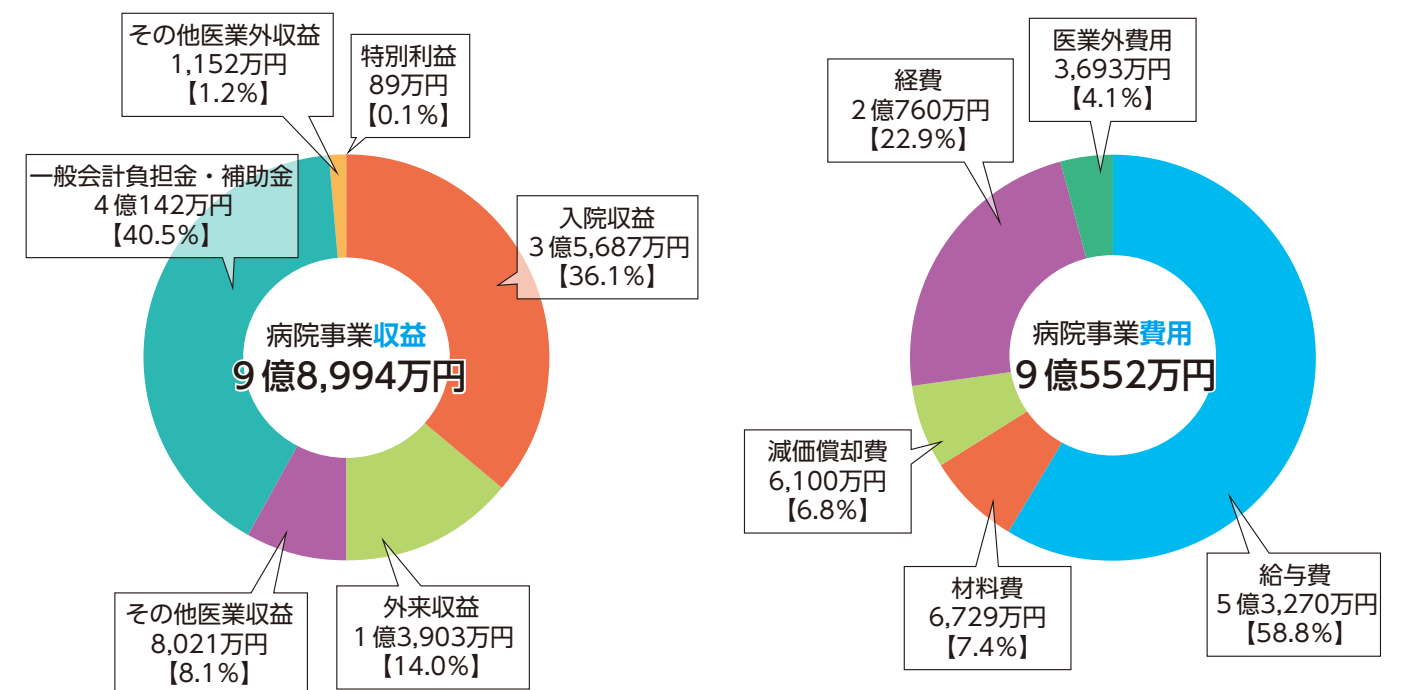
		令和元年度	令和2年度
患者数	入院	19,265人	16,317人
	外来	23,585人	21,914人
診療単価 (患者1人・1日当たり)	入院	22,471円	21,870円
	外来	6,353円	6,344円
病床利用率		57.8%	49.1%
平均在院日数		17日	19日

■改革プランの実績

項目	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	目標値
経常収支比率(%)	91.6	98.5	96.5	99.7	103.8	109.2	100以上
医業収支比率(%)	81.3	88.2	88.6	90.8	92.2	77.3	90以上
職員給与比率(%)	78.2	71.2	73.1	71.1	69.8	79.2	69以下
病床利用率(%)	66.9	71.7	57.3	52.4	57.8	49.1	83以上

※項目は、経常収支比率、医業収支比率、職員給与比率、病床利用率を掲載

注) 目標値は、平成29年度から令和2年度までの「新公立病院改革プラン」に沿った目標値となっております。



令和2年度の病院事業は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い自治体病院としての役割を大きく担うとともに、経営に大きな影響を及ぼしました。外来の患者数が減少し、入院についても感染症病床の確保をすることで入院患者の患者受け入れの抑制を余儀なくされました。有明圏域の医療状況は新型コロナウイルスの第3波の影響を受け、当院も感染症病床が逼迫した状況となるなど、医療従事者への負担も多大な1年間でありました。

入院収入は、前年度比76,052千円減の356,866千円となり、外来収入は、前年度比10,804千円減の139,025千円となりました。

一方、支出は経費が前年度比24,477千円増の154,663千円、給与費は前年度比4,773千円増の577,952千円、減価償却費は前年度比3,589千円増の61,000千円、医業外費用は前年度比8,482千円増の36,924千円となりました。

診療報酬での収入が減少し、経費等の増加がありました。新型コロナウイルス対応補助金や、新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金などの活用により、感染対策物品の購入や、感染症病床確保のための空床補償などもあり総収益989,943千円、総費用905,528千円となり、差引き84,415千円の黒字決算となりました。

令和2年度の概況